

ダリア

花持ちに問題があったため、都市近郊での切花栽培や、花壇用・鉢物用としての流通が主であった。最近では主に仕事花として利用されるケースが多い。

学名 *Dahlia × cultorum* キク科
和名 天竺牡丹 (テンジクボタン)
原産地 中央～南アメリカ

特性・・・高温と強光に耐性を持つが、基本的に冷涼な気候を好むため春と秋の開花が適する。日長が12時間を切ると休眠する。
開花特性・・・相対的短日植物
開花期・・・季咲きで6月～11月
栽培環境・・・粘土質の土壌は適さないが、生育期は乾燥に弱い

1坪あたりの植え付け本数・・・約13本/坪
1株あたりの採花本・・・8～20本
価格・・・プレフォーマ苗(100本単位) カタログ参照

播種

播種時期・・・2月
発芽条件・・・
発芽適温・・・20～22℃
発芽日数・・・5～10日

定植

定植時期・・・高冷地4～5月、暖地8～9月
定植間隔・・・株間条間40cmの2条植え
畝・・・50cm
ネット・・・40cm角で3段以上
マルチ・・・

肥料

元肥・・・N-P-K=1.0-1.5-1.0kg/a
pH・・・
追肥・・・N-P-K=0.4-0.5-0.4kg/a
(一番花終了後)

生育に窒素を必要とするが、吸肥力が強いいため窒素多過の条件では茎が太くなりすぎる。さらに草丈が伸びすぎ、開花も遅れる。

作型

- ◆高冷地栽培・・・ハウス栽培で4～5月定植、6～11月出荷。露地も可能。
- ◆暖地栽培・・・ハウス栽培で8～9月定植、10～5月出荷。最低10℃加温。



電照は14時間の日長延長か夜間中断が必要となる。

病虫害

ウイルス病・キュウリモザイクウイルス
・ダリアモザイクウイルス
・トマト黄化えそウイルス
(ウイルス病はアブラムシやスリップスなどが媒介する)
主な害虫は ダニ、オンシツコナジラミ、スリップス、アブラムシ、ハモグリバエ など
主な病気は 青枯病、灰色かび病、うどんこ病、斑点病 など

出荷

切り前は7～8分咲きの頃、葉を2枚程度残して採花する。
朝か、前日の夕方の涼しい時間帯に採花し、殺菌効果のある水あげ剤を使用する。

管理

生育適温は20～25℃
冬季は10℃以上
夜温、日射量および日照時間が短いと、奇形花や奇形葉の率が増し、花色が薄くなることもある。
仕立て方法は、大輪系の場合3節残してピンチ

(株)ミヨシ栽培資料

し、4～6本仕立てとする。その後、一番花を採花後2～3節残して芽を吹かせる。

小輪系の場合、3節残してピンチし、4～6本仕立てとするが、その後は1～2節残して芽を吹かせる。

全体的に腰高となった場合は、20～30cmの高さで切り戻しを行う。ただし、株枯れを引き起こすことがあるので、切り戻し後から芽吹きを確認するまでは灌水を控えること。

頂芽優勢ではあるが、各節から側芽が発生してくるため、次に採花する芽以外は摘み取るのが理想である。

定植直後は十分に灌水を行い、活着を促す。

暑い時期の定植は、あらかじめ遮光を行い、地温を下げておくとよい。その後の遮光は、軟弱徒長を避けるため2週間程度とする。

電照により14.5時間日長に調整することで、短日期のブラインドや奇形花を軽減できる。

ダリアは12～13時間日長を境とし、それより短日条件で塊根を作って休眠する。逆に長日条件下だと生長を続ける。